

## 発刊にあたって

故郷の宗像を、花があふれるまちにしたい。花に囲まれた、心豊かな暮らしができるまち宗像を夢見て、ガーデニング作りを進めていた平成22年のある日、県庁時代の先輩である谷井博美市長にある会合であった折、絶滅が心配される宗像市の花カノコユリの復活に力を貸してほしいと要請されたのが、カノコユリと関わるきっかけでした。

市内のカノコユリは、都市化に伴う山野の開発、急激な農家の減少・農業の機械化等によってカノコユリに適した生育環境が破壊され、自生のカノコユリが見られなくなってきています。

むなかた水と緑の会で平成22年から実態調査を始めた折、時を同じくして九州大学・園芸学研究ユニットが絶滅危惧種カノコユリの保全に関する研究が開始されています。このため、23年の夏・秋には、それまで集めた情報をもとに一緒に生態調査を行い、この時に採取された葉のDNA解析が九州大学で行われ、宗像で連続と生き続けてきた宗像固有のカノコユリが見つかりました。

これを受けて、市とむなかた水と緑の会では宗像固有種の普及に取り組むこととし、持ち主に相談して毎年種子をもらいうけ増殖を始めました。また、多くの市民の皆さんにもカノコユリに親しんでもらうため、24年度から種まき講習を始め、プランターに播いた種は自宅に持ち帰って育ててもらっています。種まき講習は、平成24年度は1回、25年度は4回、26年度は10回実施し、350名を超える市民が自宅でカノコユリの花が咲くのを夢見て育てています。

カノコユリは、生育環境に非常に敏感な植物で、適した環境のところに植えて、地域住民が関心を持ってほんの少し手助けをする必要があります。このため、カノコユリの育成についての正確な知識と経験を持ち、地域の中核として活動できる人が多く必要です。こうしたことから、平成26年1月に宗像カノコユリ研究会を設立し、カノコユリの研究・増殖そして普及方法を協議し、実践するための活動を始めました。

カノコユリのことをもっと知りたい、自分で育てて増やしたい、地域にカノコユリを植えてほんの少し手を貸し、絶滅が危惧されるカノコユリの復活に協力したいという人が一人でも多くなることを期待しています。

平成26年度には宗像市の補助事業で事業化しており、その活動の一環として、意欲的にカノコユリの勉強をしようとする人向けの小冊子を作成することとしたものです。本冊子はその役に立てば幸いです。

平成27年3月

宗像カノコユリ研究会

会長 吉田博美